

災害から1年、復興への歩み

自主防災組織を結成して

北山町内自主防災会 会長
中村 光男さん(落合町阿部)



地域住民の安全のために

北山地区が県指定の土砂災害警戒区域に該当することから地域で声が上がリ、平成30年4月に自主防災組織を結成することになりました。現在は159戸、520人の組織となっています。

平成30年7月豪雨災害時には組織の体制が整っておらず、高齢者への連絡や班長などへの指示の仕方などに苦労しましたが、約40人



防災訓練の様子

が避難した集会所では、何とか安全に過ごすことができました。昨年の11月に実施した防災訓練には約160人が参加し、消火器の操作や消火栓を使用した放水訓練、非常食の配布などを行いました。この訓練では多くの課題も見つかりましたが、9月に実施する訓練での改善につながると考えています。また、この地区に住んでいる外国人の方にも訓練に参加していただき、一緒に地域を守っていききたいと思います。

「自助」の重要性を伝えていく

自主防災組織として活動していく中で、「自助」は非常に重要だと考えています。いざというとき、自分たちの身は自分たちで守らなければなりません。その重要性を伝えていくとともに、消防団、自主防災組織、町内会などの情報交換や連携ができるような体制を整えていきたいと思っています。

ボランティア活動を通して

関原 翠さん(成羽町吹屋)



私にもできることがある

平成30年7月豪雨災害では私の家の裏も少し崩れましたが、大きな被害はなく2日後には片付けができることができました。

その後、高梁市社会福祉協議会を通してボランティア活動に参加することを決めました。ボランティア活動への参加は、「市内で大きな災害が起こっているなかで私にも力になれることがあるのではないか」と感じたからです。

7月から8月まで、玉川町や落合町などで家から泥を掻き出した

り、汚れた家具を搬出したり、床を掃除したりしました。

災害からの復興へ向けて

災害現場を目の当たりにした私は、とても悲惨な状況だと感じました。しかしながら、被災された皆さんは大変な思いをされているにもかかわらず、とても親切な対応をされていました。ボランティアとして活動する中で、そのような姿や気配りがとても印象に残っています。

穏やかな高梁川の流れを見ていると災害を忘れてしまいそうになります。被災された皆さんにとっては心に重く残っていると思います。その「心の復興」も含めて、災害からの復興にはまだまだ時間がかかるのではないのでしょうか。

いつどのような災害が起こるか分かりません。今回の災害を風化させないように日々考えていきたいですし、私にできる範囲でボランティア活動を続けていきます。

消防団活動を振り返る

高梁市消防団 団長
西右介さん(中原町)



災害対応の経験を生かして

平成30年7月豪雨災害時には多くの消防団員が出動しました。当時は消防団の本部に情報が入りにくく、各分団へ対応をお願いしましたが、各分団も情報収集や連絡を取り合うことが難しい状況でした。また、道路の冠水により救助の要請がある場所へ行くことができないなど対応に苦慮しました。

現在は、連絡網の調整や市災害対策本部との連携などの課題に、消防署と協力して取り組んでいます。

す。また、団員の身を守るために救命胴衣や雨具も整備しました。

地域の安心・安全のために

6月30日に高梁小学校グラウンドなどで行われた大規模水害対策訓練には市内の全分団を招集し、各会場に指揮本部を設置しました。避難誘導訓練など、昨年の豪雨災害を生かした訓練や救助救出活動などを消防署と連携して行うことができました。この訓練の経験を団員全員で共有していきたいと思っています。

消防団は地域の安心・安全のために活動していますが、いつ起こるか分からない災害時にできることは限られています。そのため、地域による自主的な行動も大切であり、そのような意識を皆さんに持っていただくための広報活動も行う必要があると考えています。消防団員の確保が難しい状況ではありますが、消防本部などと協力しながら市民の皆さんのために活動していきたいと思っています。

ボランティア活動を通して

吉備国際大学心理学科2年
石原 春乃さん(浜町)



東日本大震災の経験から

小学5年生のとき、東日本大震災が発生しました。私のクラスも何か役に立ちたいという思いから、食料品や、空き缶を集めた収益で購入した図書カード、また製作したミサンガなどを被災地の小学校へ送りました。私はこのときの経験からボランティア活動に興味を持つようになり、大学入学と同時に順正学園ボランティアセンターの学生スタッフとして活動を始めました。

体験していない人へ伝えていく

昨年の7月6日はアルバイトをしていました。避難指示が発令されたため早めに帰宅しましたが、次の日の朝、多くの水害が発生していることにとても驚きました。

7月9日からボランティア活動に参加し、土砂の撤去や畑の片付けなどを手伝いました。被災された皆さんから「来てくれてありがとう」などの言葉をいただき、私の方が元気をもらいました。この経験を生かして、順正学園ボランティアセンターでは防災をテーマとしたイベントを今年度開催する予定です。被災前の状況に少しずつ戻ってきていますが、昨年の災害を決して忘れてはいけません。私たちがあの経験を思い出すことで、災害を体験していない人たちへ伝わっていくことを願っています。



募金活動も行いました

災害から1年、復興への歩み